

6月初旬だというのに夏日です。四季がある国と思っていましたが、夏が長い国になってしまいました。熱中症に注意しましょう。

//// I N D E X //////////////////////////////////////

- ・ ISO 関連情報-----ISO の新提案 (ネットゼロが二つと CFP の改定)
- ・ LCA の実務 mini 18---気候変動だけでも LCA?
- ・ LCAF からお知らせ...LCAF オンライン初級検定を 7 月 6 日(土)に行います。
- ・ 編集後記.....シジュウカラ

■ LCA 関連情報 : ISO の新提案 (ネットゼロが二つと CFP の改定) ■

○ネットゼロの新規格 : ISO14060 : Net zero aligned organizations

国際ワークショップの IWA42 : 2022 (ネットゼロガイドライン) を ISO に格上げすることが各国の投票できまり、TC207/SC7/WG18 が設立されました。第 1 回会合が 6 月 27 日 (木) と 28 日 (金) にオンライン (日本時間 19 : 00~26 : 00) で行われます。議長は英国、セクレタリーはカナダです。

規格の題名が Net zero guideline (ネットゼロガイドライン) から Net zero aligned organizations (ネットゼロを目指す組織) に変更になっています。対象は「組織」ですので、企業がネットゼロを宣言するための要求事項が書かれることとなります。既に発行されている ISO14068-1:2023 (ネットゼロへの移行 - パート 1 - カーボンニュートラルリティ) との整合性が課題だと思います。ISO14068-1:2023 ではトランジションの間に削減で作られたカーボンクレジットを購入してカーボンニュートラルを宣言することを認めています。IWA42 はトランジションの間のカーボンクレジットによるオフセットを認めていません。この矛盾をどのように解決するかが焦点点だと思います。GHG プロトコルの Scope1,2,3 や SBTi の活動との整合性も問題になるかもしれません。2025 年 11 月の COP30 (ブラジル) に合わせて発行することが計画されています。

様々な組織からリエゾン (WG への参加) の申請が出ているので、各国からのエキスパートだけでなく、NGO や国際工業団体からの参加がある大きな WG になると思います。

○ネットゼロの新提案 : ISO 32212 Sustainable finance – Net zero transition planning for financial institutions.

ISO/TC322 (サステナブルファイナンス) から「金融機関のためのネットゼロトランジション計画」が英国から提案されました。6 月末の締め切りで各国による投票が行われています。

上述の「ISO14068-1:2023 (ネットゼロへの移行 - パート 1 - カーボンニュートラルリティ)」でも「組織」の一つの典型として「金融機関のカーボンニュートラルリティ」が Annex で特別に書かれています。提案が通ると、こちらも ISO14068-1:2023 との整合性が問題になると思います。

○CFP (カーボンフットプリント) の新提案

TC207/SC7 の TG (タスクグループ) からの提案という形で以下の改訂が提案されました。7 月 5 日締め切りで各国の投票が行われています。

1) ISO 14064-1 Greenhouse gases – Part 1: Specification with guidance at the organization level for quantification and reporting of greenhouse gas emissions and removals,

いわゆる「組織の CFP」です。現状の 2018 年版は、電力の GHG をロケーションベース (排出係数に地域の平均値を使う) で算定することを要求事項としていて、マーケットベース (再生可能電力の排出係数を使うこと) で算定を認めていません。製品のカーボンフットプリント (CFP) ISO14067:2018 及び上述の ISO14068-1:2023 がマーケットベースの算定を認めていることと整合していません。マーケットベースを認めるかが大きな課題と思います。また、ついこの間定義の DIS が出た「削減貢献量 (Avoided Emission)」を、この「組織の CFP」の算定で使えるようにするかどうか大きな課題と思います。

2) ISO 14064-2 Greenhouse gases – Part 2: Specification with guidance at the project

level for quantification, monitoring and reporting of greenhouse gas emission reductions or removal enhancements,

いわゆるプロジェクトの CFP です。プロジェクトがない時（ベースライン）と比較してカーボンクレジットを発行する時の基礎になる規格です。この「比較」の概念は「削減貢献量」と通じるところがあります。現状の 2019 年版が発行される時にはなかった「削減貢献量」をこの規格で扱うかどうかは課題と思います。コンビナーはエネルギー経済研究所の工藤さんです・

3) ISO 14067 Greenhouse gases - Carbon footprint of products - Requirements and guidelines for quantification,

良く知られている「製品のカーボンフットプリント (CFP)」です。世界中で使われているので、これを改訂すると困ることが多いと思うのですが、改訂の投票が行われることになりました。上述した「削減貢献量」は CFP とは別枠で表示することが、現在の世界的なコンセンサスだと思うので、算定方法のこの規格に盛り込まれることはほぼないだろうと思います。新しい課題として、「マスマランスアプローチ」の算定を議論することになりそうな気がします。

これらの新提案への日本の投票（賛成か反対か）は、投票前に行われる国内委員会で決めることとなります。次号で結果をお知らせします。

### ■■ LCA の実務 mini 18 : 気候変動だけでも LCA ? ■■

LCA は資源の消費量や CO2 などの排出量を算定する「インベントリ分析」と、それらの環境への影響を評価する「影響評価」が主なフェーズです。最近の研修で、「カーボンフットプリント (CFP) は、インベントリ分析で算定した CO2、CH4、N2O などの排出量に、地球温暖化係数 (GWP) を乗じて「気候変動」への影響評価を行う LCA です。」と説明しましたら「LCA は気候変動だけでなく、他の影響領域も評価しないとイケないのでは？」と質問を受けました。一般に、「LCA は多様な影響領域を評価し、CFP は気候変動だけ評価する」と思われているようです。

ISO14040:2006 では「原則」の 4.1.7 に「LCA では、自然環境、人の健康及び資源の全ての属性又は側面を評価する」と言っています。つまり、全ての側面を見ることが「原則」なのですが、LCA の 4 つのフェーズ（「目的と調査範囲の設定」、「インベントリ分析」、「影響評価」、「解釈」）の最初の「目的と調査範囲の設定」で取り上げる領域の妥当性を示せば、「気候変動」だけを取り上げても良いと理解されています。逆に言うと、LCA 報告書と言いながら「気候変動」だけを取り上げると、海外の LCA のクリティカルレビューパネルに参加した経験では、必ず誰かが「気候変動だけを評価する理由を述べよ」と言います。

LCA は方法論ですので、ISO の実施方法に則って、気候変動だけを評価する理由を言えば、気候変動だけを取り上げても良いのです。これが、ISO で LCA の議論が始まる 1993 年以前からの LCA への批判です。つまり、評価する「影響領域」を恣意的に決めることができるのではないかということなのです。

製品のカーボンフットプリント (CFP) の ISO14067:2018 では、この「気候変動」だけを取り上げることが Annex で limitation (限界) として注意深く書いています。また、ISO14068-1:2023 (カーボンニュートラリティ) は、「4. 原則」に「4.9 Avoiding adverse impacts」にカーボンニュートラルの活動が他の環境と社会への影響を最小にとどめることを書いています。一般に、「気候変動だけを取り上げるのは変だ」という理解があるのだと思います。

### ■■ LCAF からのお知らせ : LCAF オンライン初級検定を 7 月 6 日(土)に行います。

1 時間 20 問です。過去問も公開されています。以下をご覧ください。

[https://lcaf.or.jp/education/test/arc\\_beginner/](https://lcaf.or.jp/education/test/arc_beginner/)

○[再掲]今年度の LCAF オンライン研修と検定の日程は以下です。

内容は <<https://lcaf.or.jp/education/>> をご覧ください。皆様のご参加をお待ちします。

- ・ LCAF オンライン初級研修  
第 2 回 : 9 月 4 日(水)・9 月 5 日(木)  
第 3 回 : 12 月 18 日(水)・12 月 19 日(木)
- ・ LCAF オンライン中級研修  
第 1 回 : 7 月 31 日(水)・8 月 1 日(木)  
第 2 回 : 11 月 13 日(水)・11 月 14 日(木)

- ・ LCAF 初級検定
  - 第 1 回：7 月 6 日(土)
  - 第 2 回：10 月 26 日(土)
  - 第 3 回：2025 年 3 月 1 日(土)
- ・ LCAF 中級検定
  - 第 1 回：9 月 28 日(土)
  - 第 2 回：2025 年 1 月 25 日(土)

○[再掲] 好評につき増刷します。参考図書「基礎から学ぶ LCA～LCA の実施と活用～」  
以下からお申込みください。(3,000 円+税+送料) です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

この参考図書の図表をパワポに貼り付けた資料の販売を始めました。価格は要相談です。

○「再掲」規格協会が発行した ISO14068-1 の対訳本の監修をしました。

59,939 円(税込み)です。高いのでびっくりしました。

<[https://webdesk.jsa.or.jp/books/W11M0090/index/?bunsyo\\_id=ISO+14068-1%3A2023](https://webdesk.jsa.or.jp/books/W11M0090/index/?bunsyo_id=ISO+14068-1%3A2023)>

ISO の翻訳 JIS ではなく「対訳」ですので、{GHG removal} を翻訳 JIS で使われる「吸収」ではなく「除去」にしてもらいました。(残念ですが、翻訳 JIS が出るときには、JIS としての一貫性の観点から、また「吸収」に戻るように思います。)

#### ■■ 編集後記: シジュウカラ ■■

シジュウカラは首にネクタイの柄があるのですぐにわかります。ビチビチビッチーと鳴きます。ホームセンターで巣箱を買って、一昨年は玄関のところの柘植の木に、昨年は庭の金木犀の木に付けたら入って子育てをしました。今年も巣箱を新調して待っていたのですが、内見には来ましたが、使ってもらえませんでした。残念です。

我が家の狭い庭に、サクランボも花桃も苗を買って植えました。毎年、鳥と競争で収穫して食べます。柿とみかんは食べた後の種を植えました。柿はもう 6 年くらいになるので、今年は花が咲かないかと楽しみにしています。みかんは 30 cm 位になるたびに蝶の幼虫に食べつくされて育ちません。自分で食べるためか、鳥や蝶の餌にするためか、手入れをしている自分も判然としません。食べられるのがいやなら巣箱を掛けなければ良いわけで、また幼虫を見つけた時に駆除すれば良いわけですが。。。

ほんとうに矛盾だらけの私ですが、多くの方が係わる ISO ではもっといろいろな主張に直面します。本号の「LCA の実務 mini 18: 気候変動だけでも LCA?」を書いていて、そんな風に思いました。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

○LCAF の活動にご支援頂ける企業様に「賛同会員」としてのご参加をお願いしています。

<https://lcaf.or.jp/support-members/>

ご協力をお願い申し上げます。

○ご意見、ご感想、この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで

[lcaf-contact@lcaf.or.jp](mailto:lcaf-contact@lcaf.or.jp)

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-36-7 アルテール池袋 608

電子メール: [lcaf-contact@lcaf.or.jp](mailto:lcaf-contact@lcaf.or.jp)

URL: <https://lcaf.or.jp/>